

富士ダイス株式会社

2019年3月期 決算説明資料

匠の技と信頼の輪

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

目次

FUJILLOY

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2019年3月期 業績概要	14
IV : 2020年3月期 業績見通し	22
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	41

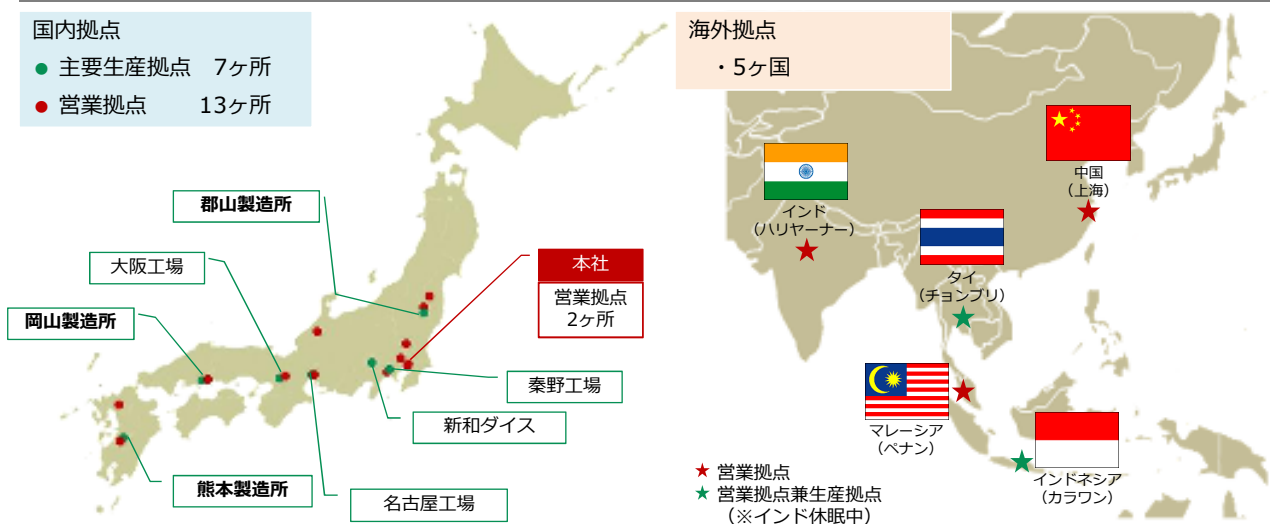
I :	会社概要	2
II :	当社の特長	6
III :	2019年3月期 業績概要	14
IV :	2020年3月期 業績見通し	22
V :	成長戦略（中期経営計画）	28
VI :	参考資料	41

会社概要

会社概要

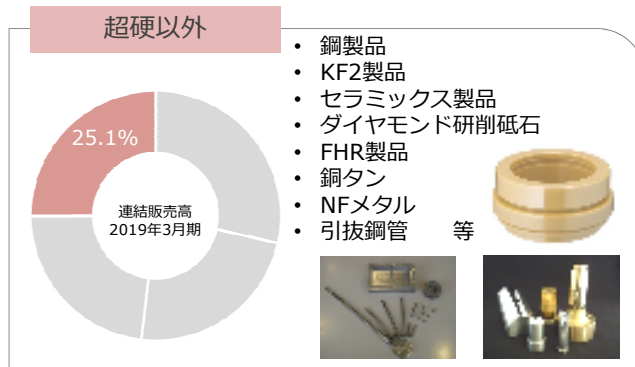
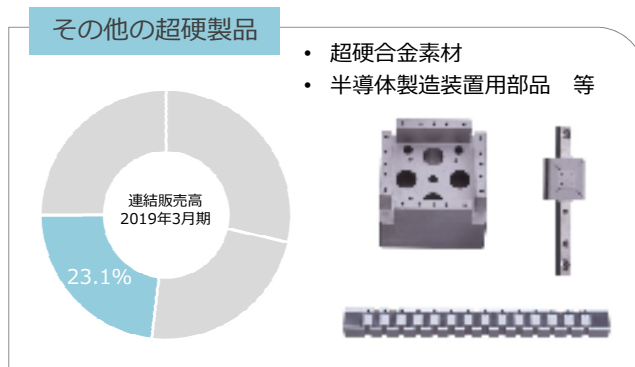
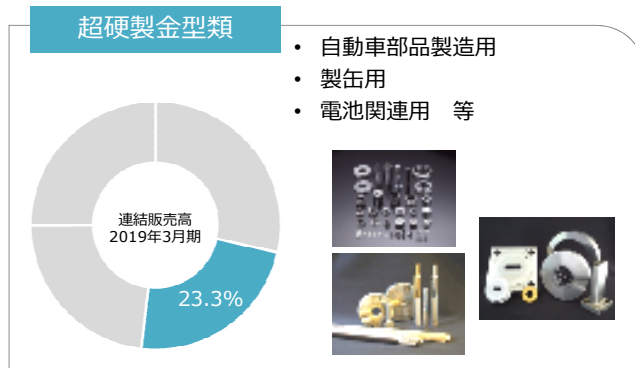
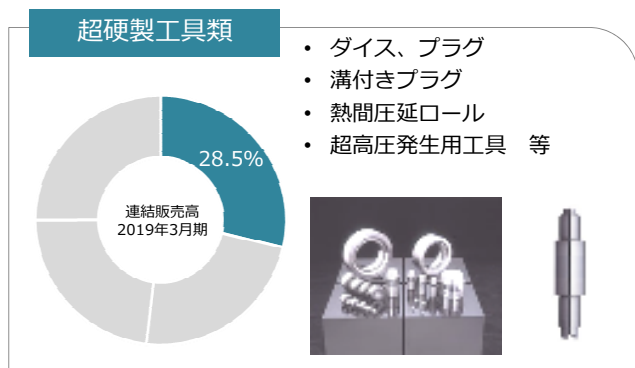
商号	: 富士ダイス株式会社	創業	: 1949年6月
所在地	: 東京都大田区下丸子2-17-10	設立	: 1956年4月
資本金	: 164百万円	事業目的	: 超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造・販売
代表者	: 代表取締役社長 西嶋 守男	従業員数	: 1,145名（2019年3月期末、連結）

拠点（2019年3月31日現在）



※2017年5月に門司工場を閉鎖し、生産設備を熊本製造所に移管

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化



様々な製品の製造工程に用いられる

■ お客様の製造工程における生産性（加工速度や精度）向上に直結する超高精度の工具・金型を提供



	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2019年3月期 業績概要	14
IV : 2020年3月期 業績見通し	22
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	41

当社の特長 ハイライト

POINT1

超硬耐摩耗工具業界で長期に亘り国内トップ

POINT2

受注生産・直販体制、全国をカバーするネットワーク
取引先は約3千社、業種も多岐に亘る

POINT3

一貫生産体制により様々なオーダーに柔軟に対応

POINT4

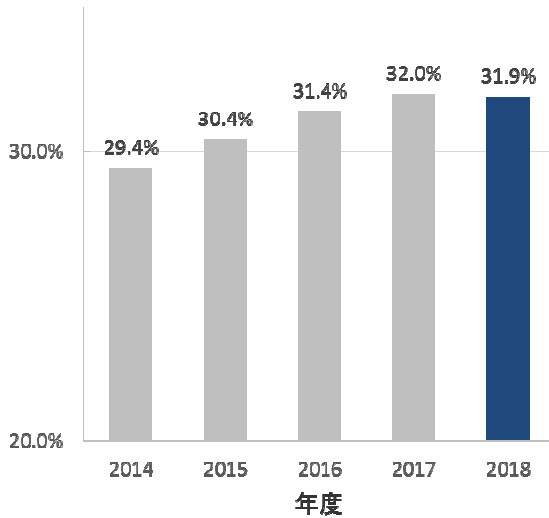
開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

POINT5

堅固な財務基盤

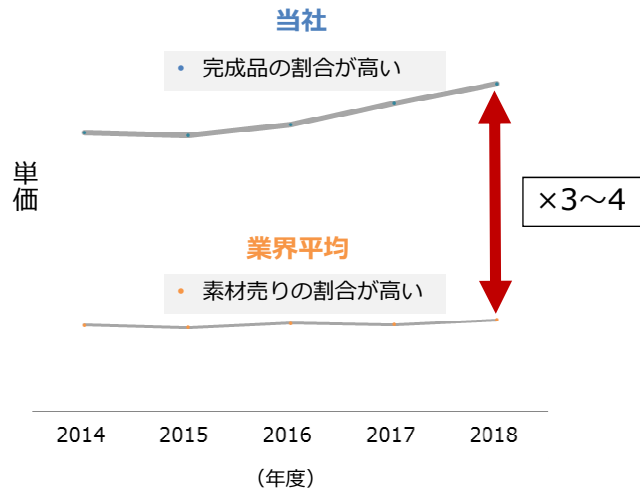
- 国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り**、**トップシェア**を堅持
- 少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定**して推移

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



出所：日本機械工具工業会

製品の平均単価の推移



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

- **業界最大**の約100名の営業員による**直接販売網**を構築
- メンテナンス（修理・再研磨）により**高いリピート率**を実現

拠点網（2019年3月31日現在）

主要生産拠点 7ヶ所

郡山、秦野、名古屋、大阪、岡山
熊本、新和ダイス（山梨）

営業拠点 13ヶ所

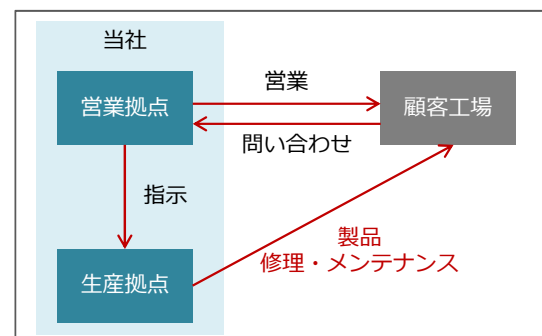
郡山、埼玉、秦野、栃木、東京
岡山、大阪、名古屋、北陸
熊本、門司、本社（輸出部）
富士シャフト（福島）



※2017年5月に門司工場を閉鎖し、生産設備を熊本製造所に移管

顧客との強固なネットワーク

- リレーションを強化することにより、顧客の要望に対しタイムリーに対応
- 顧客の生産効率アップに繋がる提案が可能



顧客ニーズ

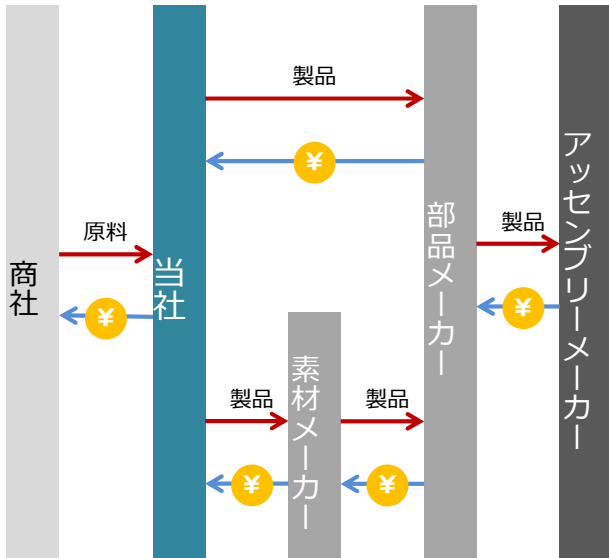
- 製品自体の耐摩耗性や精度の高さ
- 設計思想や生産体制に合った製品

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

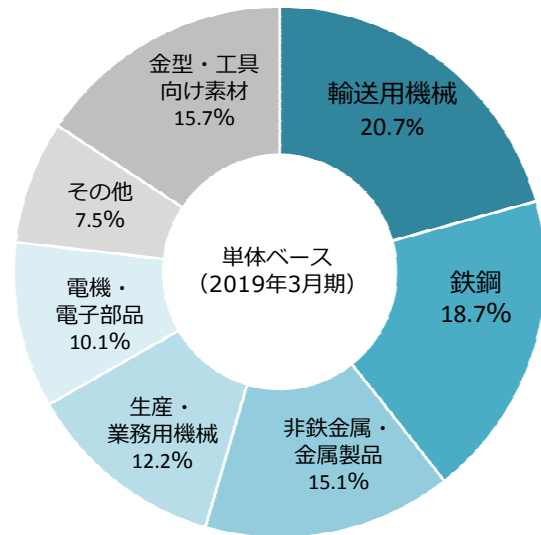
9

- 少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の**受注生産・直接販売**を行う
- 取引社数は**約3千社**、**業種も幅広い**
- 特定の系列に属さない**独立系**のため様々な業界、企業と取引が可能

事業フロー



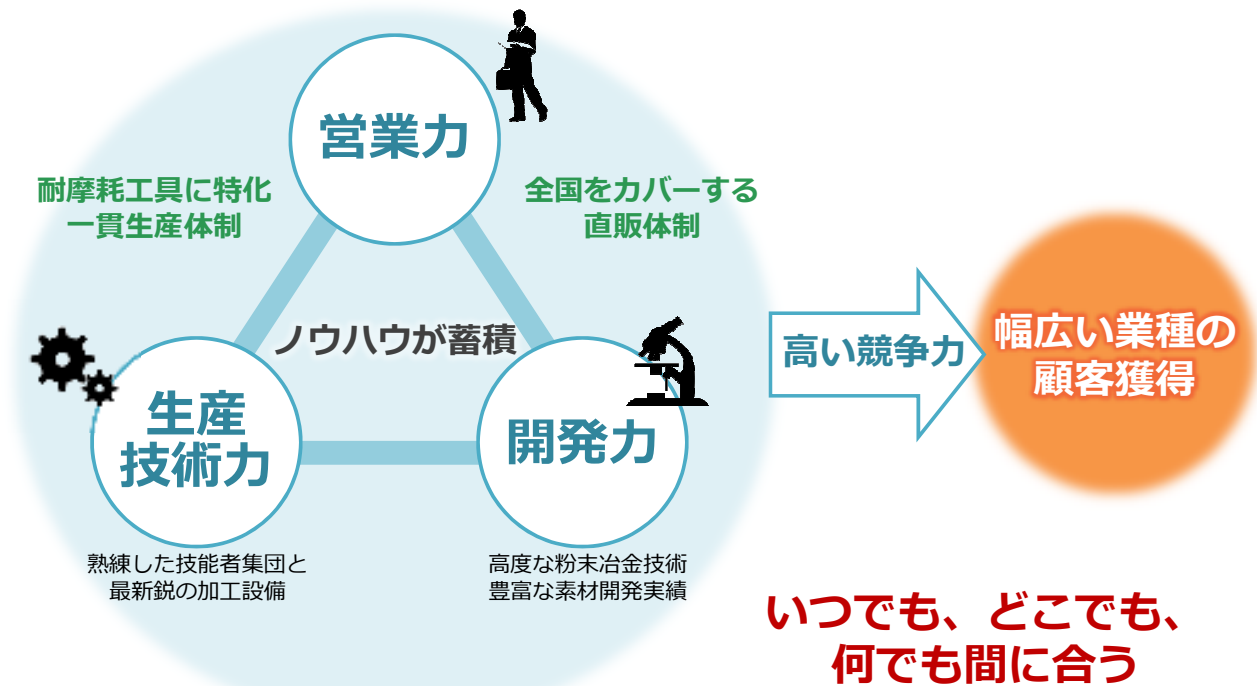
顧客産業分類別売上構成比率



- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで**一貫した受注生産体制**
- **高度な粉末冶金技術と加工技術**
- 様々なオーダーに対し**柔軟に対応**が可能（多品種・少量生産）



- 開発力、生産技術力、営業力が相まって、高い競争力を創出

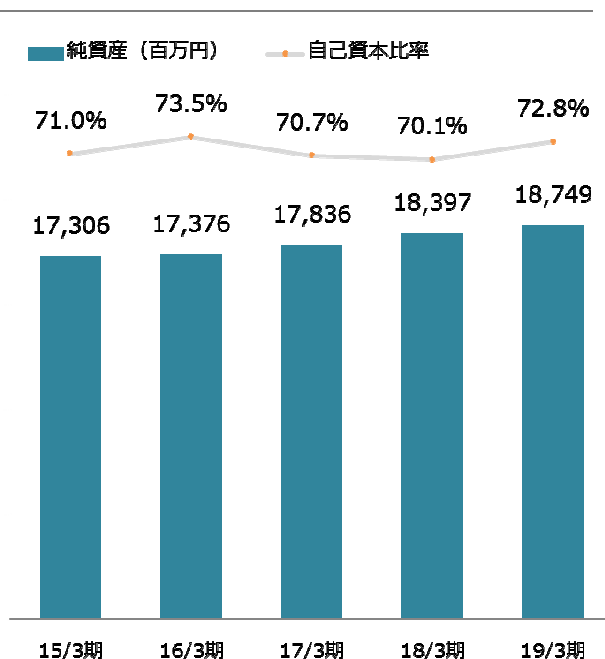


Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

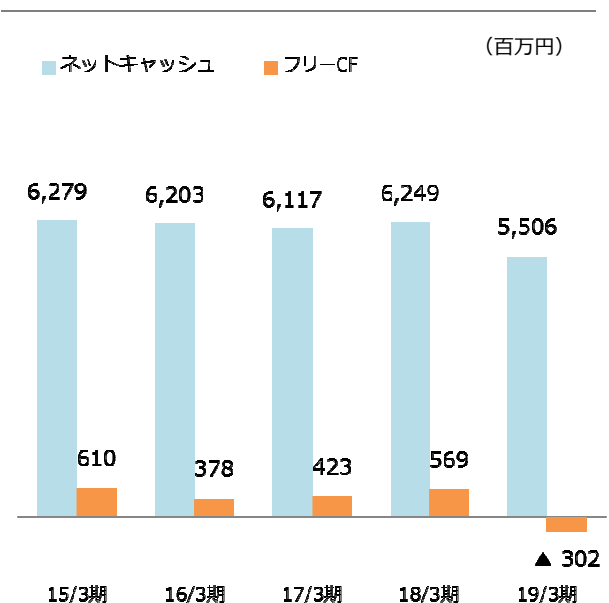
12

- 創業以来現在に至るまで黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持
- 手元資金も潤沢

純資産・自己資本比率推移



ネットキャッシュ残高・フリーCF推移



※ネットキャッシュ＝
 (現金＋有価証券)－(短期借入金＋1年内返済予定の長期借入金＋長期借入金)

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

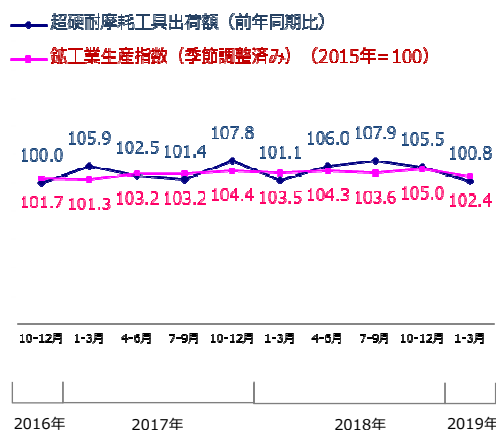
13

I :	会社概要	2
II :	当社の特長	6
III :	2019年3月期 業績概要	14
IV :	2020年3月期 業績見通し	22
V :	成長戦略（中期経営計画）	28
VI :	参考資料	41

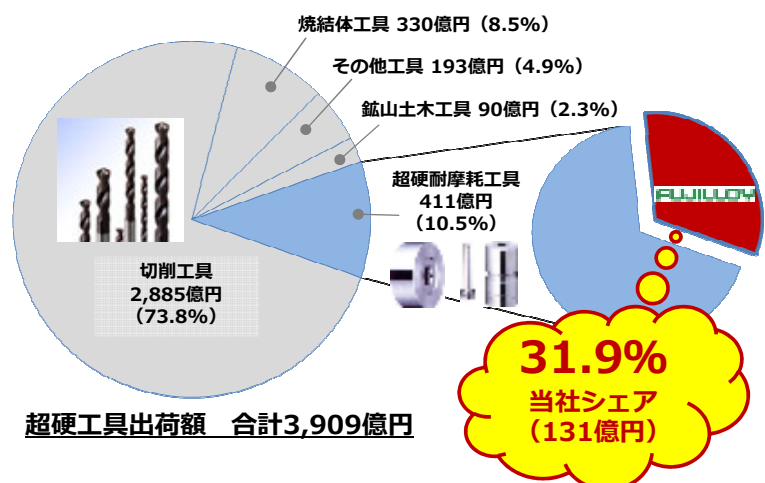
2019年3月期の事業環境

- 鉋工業生産指数は緩やかな上昇傾向が続く
超硬耐摩耗工具出荷額は2016年7-9月期より11四半期連続で前年を超える水準
- 超硬耐摩耗工具市場でトップシェア（約30%）を永年に亘って維持

超硬工具出荷額（指数）推移



超硬工具出荷額と当社市場シェア（2018年度）



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鉋工業指数』

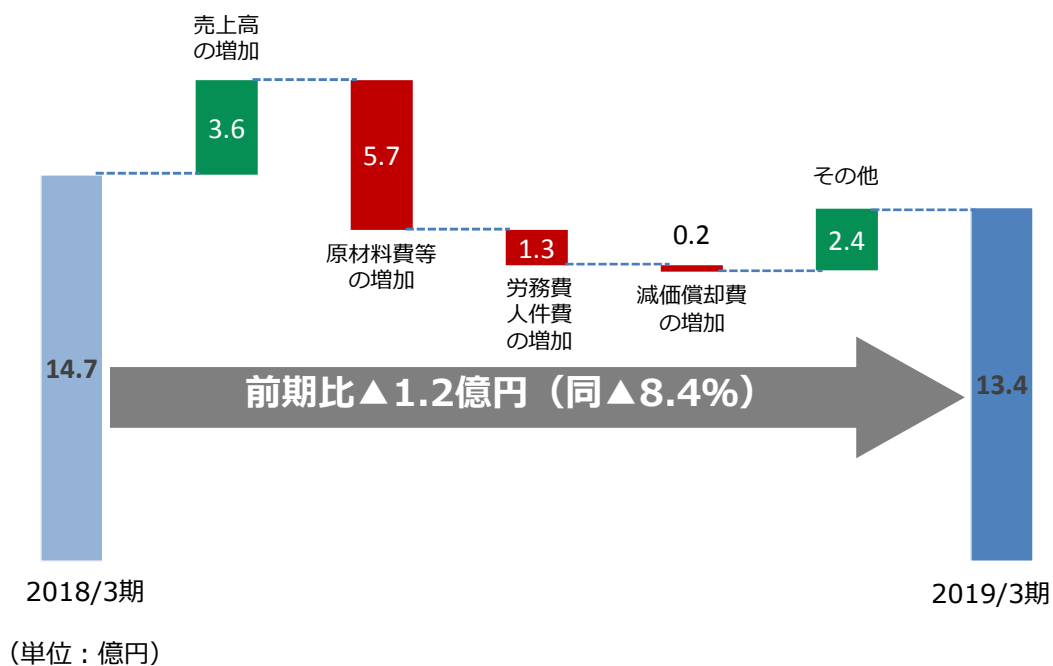
出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』

連結売上高	18,356 百万円	(前期比 102.0%) (計画比 100.3%)
連結経常利益	1,348 百万円	(前期比 91.6%) (計画比 94.3%)

- 売上高、経常利益ともに概ね計画水準で着地。
- 需要分野別では“輸送用機械”や“鉄鋼”向け工具、“金型・工具向け素材”が好調を維持。製品別では、特に熱間および冷間圧延ロール、超高压発生用工具の販売が堅調に推移。製缶金型や光学素子成形用金型の販売も増加した。
- 利益面では、タングステンやコバルト等の原材料価格高騰の影響により、前期比減益となった。

経常利益 増減要因 (前期比)

(単位：億円)



(単位：百万円、下段は構成比)

	2018年3月期	2019年3月期	
			前期比
売上高	17,990 (100.0%)	18,356 (100.0%)	102.0%
超硬製工具類	4,881 (27.1%)	5,234 (28.5%)	107.2%
超硬製金型類	4,199 (23.3%)	4,280 (23.3%)	101.9%
その他の超硬製品	3,970 (22.1%)	4,245 (23.1%)	106.9%
超硬以外	4,939 (27.5%)	4,596 (25.1%)	93.1%
売上総利益	4,648 (25.8%)	4,512 (24.6%)	97.1%
販管費	3,182 (17.7%)	3,239 (17.6%)	101.8%
営業利益	1,465 (8.1%)	1,272 (6.9%)	86.8%
経常利益	1,473 (8.2%)	1,348 (7.3%)	91.6%
親会社株主に 帰属する当期純利益	932 (5.2%)	950 (5.2%)	101.9%

主な増減要因

▷売上高

・**超硬製工具類**：混練工具や超高压発生用工具、ロール（熱間圧延用・冷間圧延用）の販売が堅調。

・**超硬製金型類**：粉末成形金型の販売が低調も、製缶金型、光学素子成形用金型の販売が増加。

・**その他の超硬製品**：半導体生産用の超硬金型素材や半導体製造装置用部品、スマホ部品生産用の超硬金型素材、引抜加工用の治工具の販売が堅調に推移。

・**超硬以外**：鋼製の電池用金型や製缶金型、KF2製の混練工具やダイヤモンド研削砥石の販売が低調。

▷営業利益

タングステンやコバルト等の材料費の高騰が影響。

▷親会社に帰属する当期純利益
前期の親会社株主に帰属する当期純利益の減損要因であった、連結子会社の減損損失がなくなったこと等による。

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

18

連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円、下段は構成比)

	2018年3月期末	2019年3月期末	
			前期末比増減
流動資産	14,756 (56.2%)	14,103 (54.8%)	▲653
固定資産	11,488 (43.8%)	11,649 (45.2%)	+160
資産合計	26,245 (100.0%)	25,752 (100.0%)	▲493
流動負債	6,047 (23.0%)	5,229 (20.3%)	▲818
固定負債	1,800 (6.9%)	1,774 (6.9%)	▲25
負債合計	7,847 (29.9%)	7,003 (27.2%)	▲844
純資産合計	18,397 (70.1%)	18,749 (72.8%)	+351
負債・純資産合計	26,245 (100.0%)	25,752 (100.0%)	▲493

主な増減要因

(単位：百万円)

▷流動資産

現金及び預金 ▲1,160
原材料及び貯蔵品 +336

▷固定資産

機械装置及び運搬具 +360
投資有価証券 ▲75
長期性預金 ▲74

▷流動負債

短期借入金 ▲352
未払費用 ▲180
未払法人税等 ▲139

▷純資産

利益剰余金 +490
為替換算調整勘定 ▲63

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

19

(単位：百万円)

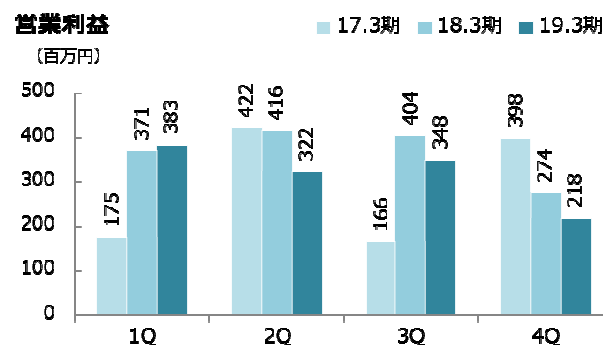
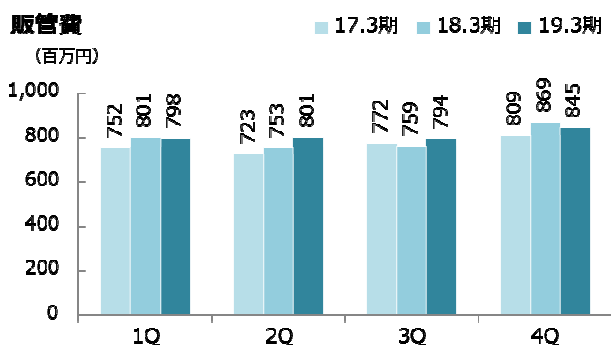
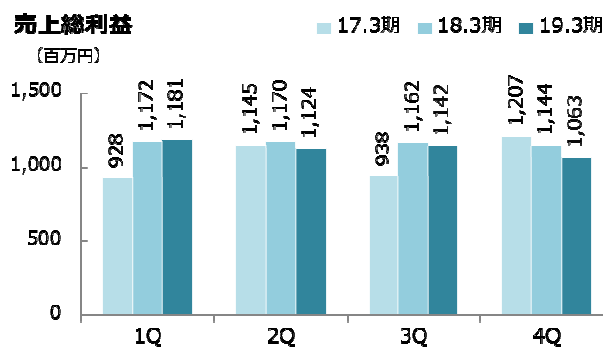
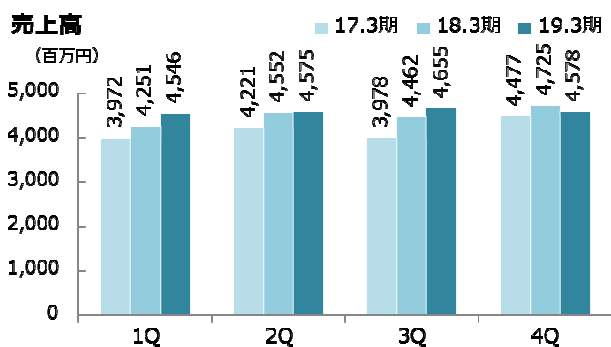
	2019年3月期
現金及び現金同等物期首残高	6,539
営業キャッシュフロー	925
投資キャッシュフロー	▲1,228
財務キャッシュフロー	▲892
現金及び現金同等物期末残高	5,319
フリーキャッシュフロー	▲302

主な内容

(単位：百万円)

- ▷ 営業キャッシュフロー
 - 税金等調整前当期純利益 1,334
 - 減価償却費 1,098
 - たな卸資産の増減額 ▲704
 - 未払金の増減額 ▲185
 - 未払費用の増減額 ▲180
- ▷ 投資キャッシュフロー
 - 有形固定資産の取得による支出 ▲1,186
- ▷ 財務キャッシュフロー
 - 短期借入金の返済による支出 ▲380
 - 配当金の支払額 ▲459

四半期業績推移



I	会社概要	2
II	当社の特長	6
III	2019年3月期 業績概要	14
IV	2020年3月期 業績見通し	22
V	成長戦略（中期経営計画）	28
VI	参考資料	41

連結業績計画

- 前期からの需要増に対応した要員拡充に伴う人件費の増加、設備機器の老朽代替費の増加、原材料費の高騰によるコスト増を見込む。
- 営業利益は前年比で減益となるものの売上高、親会社株主に帰属する当期純利益では、前年比で増収増益の見通し

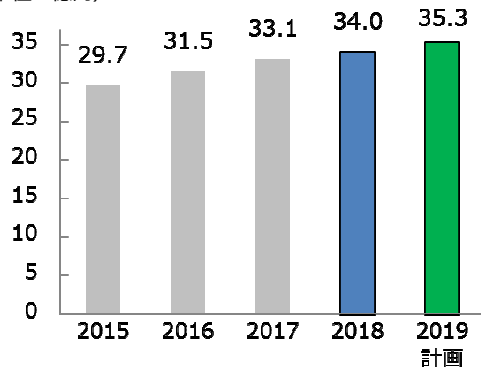
(単位：百万円、下段は構成比)

	2019年3月期	2020年3月期	
		計画	前期比
売上高	18,356 (100.0%)	18,700 (100.0%)	101.9%
営業利益	1,272 (6.9%)	1,230 (6.6%)	96.7%
経常利益	1,348 (7.3%)	1,390 (7.4%)	103.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	950 (5.2%)	990 (5.3%)	104.1%
設備投資 (※1)	1,436	1,004	69.9%
減価償却費	1,098	1,151	104.8%

※1：有形固定資産分のみ

輸送用機械

(単位：億円)

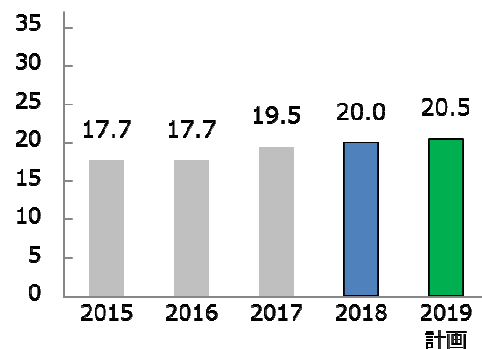


<2019年度>

- 増加の見込み
 - ・環境対策車および次世代自動車向けの部品成形用金型の受注が堅調

生産・業務用機械

(単位：億円)

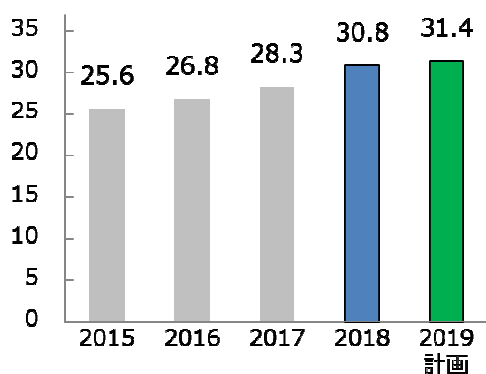


<2019年度>

- 微増の見込み
 - ・高圧関連工具が増加
 - ・光学機器用金型は微増
 - ・半導体製造装置向け部品は減少

鉄鋼

(単位：億円)

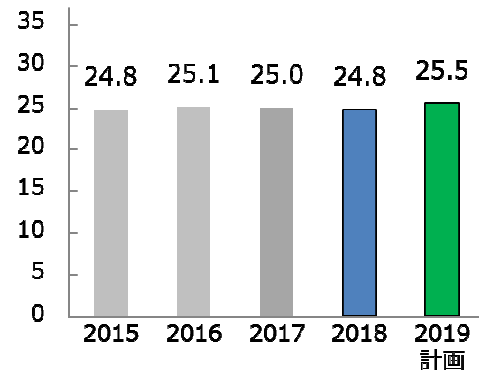


<2019年度>

- 微増の見込み
 - ・国内外高炉メーカー向け工具が横展開により増加

非鉄金属・金属製品

(単位：億円)

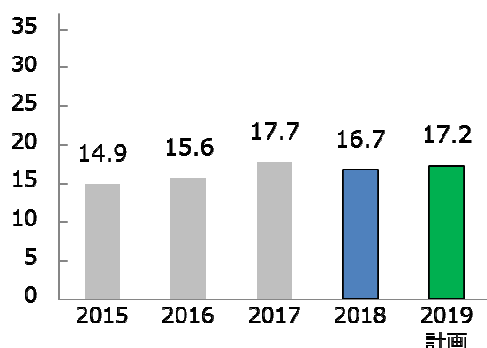


<2019年度>

- 微増の見込み
 - ・主力製品のひとつである飲料缶の成形金型は微増
 - ・家電向け非鉄金属加工用工具は微減

電機・電子部品

(単位：億円)

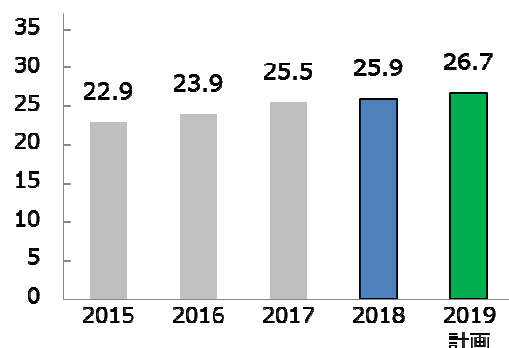


<2019年度>

- ▶ 微増の見込み
- ・磁石、電池向け金型は前期比微増
- ・半導体素材の成形工具は前期並みを予想

金型・工具向け素材

(単位：億円)



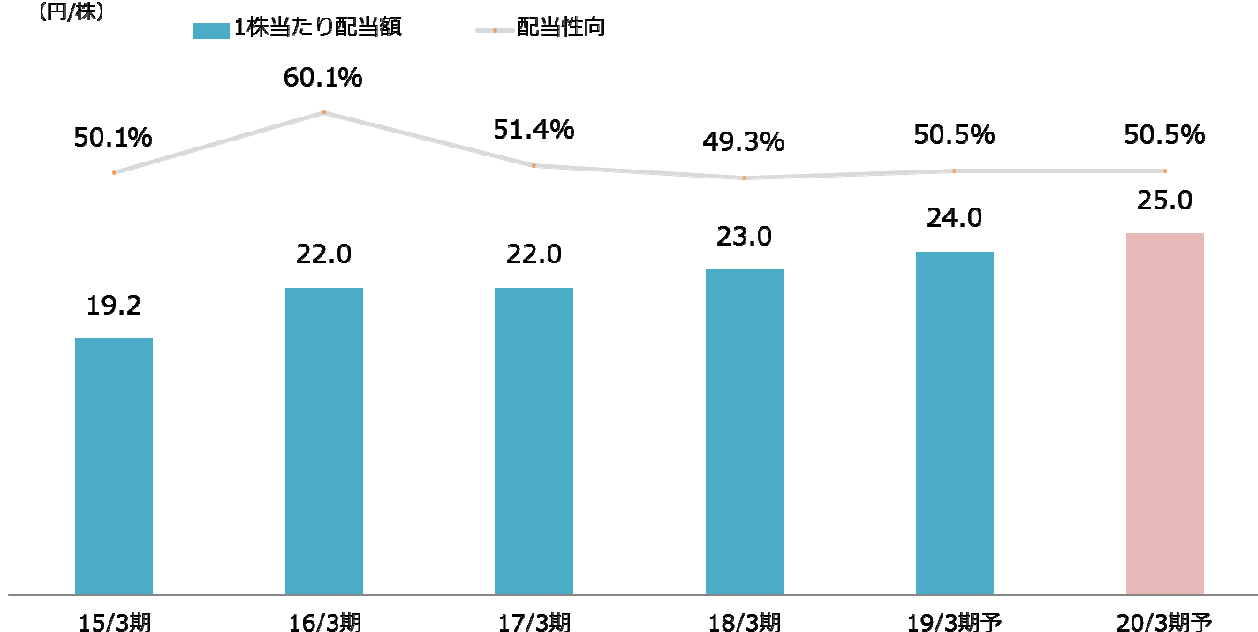
<2019年度>

- ▶ 全体としては微増の見込み
- ・次世代自動車向け工具素材の拡販を進め前期比増
- ・超硬素材は米中貿易摩擦の影響で、半導体向けを中心に減少を予測するが、価格改定を進めており全体では微増を目指す

株主還元方針

連結配当性向を50%を目処に適切な利益配分を実施

(円/株)



	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2018年3月期 業績概要	14
IV : 2019年3月期 業績見通し	22
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	41

成長戦略（中期経営計画：2018-2020年）

－ 事業環境見通しと対処すべき課題 －

持続的な成長に向けた、当社を取り巻く事業環境見通しと対処すべき課題



～基本コンセプト～

受注増への対応と、将来の社会変化への準備

1 成長力・収益力の強化

顧客要望に応える為、供給能力の増強に取り組み売上高増加を図る

- ・人員の増強
- ・冶金工場の拡充と生産設備の増設
- ・工場・設備の集約
- ・生産設備の自動化や改善活動（外部機関との連携含）による効率改善
- ・改善活動、技術開発等による製造原価低減
- ・不採算製品の見直し
- ・ITの活用による業務効率向上

2 顧客ニーズの変化への柔軟な対応

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーを目指す

- ・自動車産業の転換に対応した組織的な情報収集（ワーキンググループ設置・運用等）
- ・営業部門と生産部門の円滑な情報共有
- ・効果的な設備投資
- ・市場規模に応じた人員配置
- ・開発センターを活用した積極的な試作品投入

3 海外事業の加速

海外子会社、輸出の両輪での売上拡大を目指す

- ・アジア地域における売上増加（高付加価値製品の拡販、非日系顧客の開拓）
- ・ローカル人材の早期戦力化・定着
- ・海外子会社の経営管理の充実

4 新製品開発・新技術開発

新製品・新技術の開発をスピードアップ

- ・市場調査・分析から開発、製品化、生産移管まで一貫で進める体制構築
- ・生産方式の革新を目指し、製造原価低減、設備ツール選定、加工方式、内製による設備開発の推進体制を整備

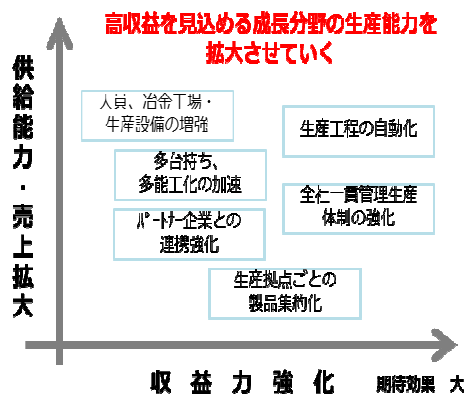
Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

1 成長力・収益力の強化

- 生産体制・生産品種の最適化
- IT化による各種情報の一元化
- 生産の自動化や省人化などの生産工程の効率化

《生産部門の施策》

【成長力・収益力強化のための施策と期待効果マップ】



生産効率10%以上の改善施策

▼主な施策 IT（情報技術）と生産体制構築による生産効率向上

	Step 1	Step 2	Step 3
IT関連	・工程管理システムによる生産日程の最適化	・生産情報の一元管理（図面・加工データ）	・IoT技術の導入による生産計画の最適化
生産関連	・生産体制再構築（生産効率化・環境対応）	・自動化、省人化ライン配置 ①：検査自動化ライン ②：MCライン ③：異工程連動 他	・自動化ラインの横展開 ・工場集約 ・子会社対応の拡大

※Step1・Step2並行展開

- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》-1

導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
●MCライン (加工設備)	2018 年度	アーム付き味ダット導入し、 セット治具を充実させ、 MC機の稼働率を向上	効果を検証中	
●超精密加工	2018 年度	棒状製品の自動研磨 (サマミカロンバルの幾何 公差 [円筒度] 実現)	自動化により 1セット当たり加工時間 58%削減 (特定製品での効果)	 (イメージ図)
●粉末～素材製作	2018 年度	熱間ロール素材用の粉末 調製条件及び焼結条件 改善によりロール製品の 素材焼結重量が向上	2017年度比 U系ロールの焼結能力 200%	

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

32

- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》-2

導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
●作図工程	2018 年度	生産部門CADデータ等を 共有し重複作業を削減	2018.7月から運用開始し、 2019.1-3月平均で 2017年度比 作業時間 35%削減	 一元活用のデータフロー (イメージ)
●研削加工工程	2018 年度	砥石の仕様改善による 加工効率の向上	2017年度比 加工時間 最大47%削減 (特定製品での効果)	 異なる粒度の混在砥石を適用 別仕様の混在砥石も検討予定

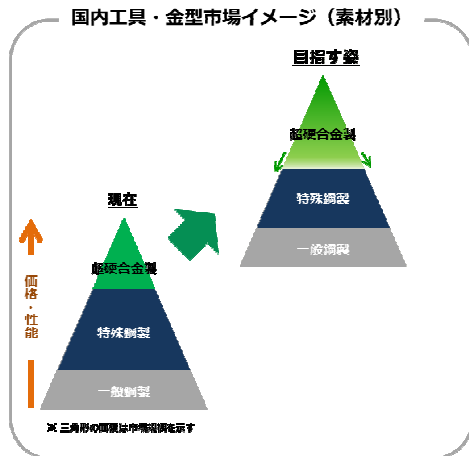
Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

33

既存重点市場の維持拡販をいしつつ、成長分野の主要サプライヤーを目指す

既存重点市場の維持拡販

- 半導体関連、缶器、ステアリング工具、レンズ金型などを重点市場と定め、既存顧客の深堀、同業への横展開を含め、維持拡販を図る
- 超硬合金の性能の高さ（硬度、製品寿命、変形しにくさ等）を改めて訴求し、従来特殊鋼が用いられていた工程で超硬合金製の工具・金型への転換を提案し、新規案件を開拓



営業力の強化

- 営業部門の再編
 - 地域の市場規模に応じた人員配置
(名古屋営業所の移転実施：2018年6月)
- ソリューション営業の強化
 - 顧客の新製品立上げ支援
(製品開発初期からの協業、積極的な試作品投入)
- 営業員の能力開発
 - 階層別教育の拡充（外部講習、e-ラーニング等）
 - リアルマシナートリプル導入による個の力量把握と向上支援
- IT活用による一層の業務効率改善
 - SFA（営業支援システム）やEメールの高度利用による緊密なコミュニケーションと顧客/技術レジの共有化の促進
 - 社内の各種文書のデジタル化推進

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

高精度・高精密が求められ、当社が優位な製品分野で更なる拡販

次世代自動車

アルミ、鉄 → 成形 → H V ・ P H V F C V ・ E V など

冷間鍛造金型 抜き・絞り金型他

- 次世代自動車向けモーター、電池等、従来から取り組んでいる製品は、採用される車種増加に伴い増加を見込む
- 2019年度は燃料電池車向け金型の量産化により売上増が見込まれる

高圧発生装置

カーボン材料 → 加工 → 人工ダイヤモンド・新素材開発

高圧用工具

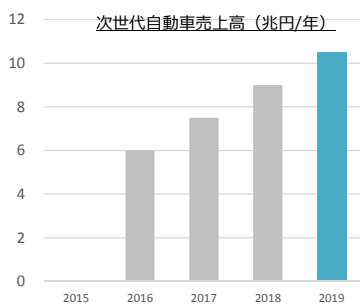
- 自動車/航空宇宙向け切削工具の需要増加見込みにより、人工ダイヤモンド、CBN（窒化ホウ素：研磨剤）生産用の高圧発生装置用工具が需要拡大見込み

光学機器

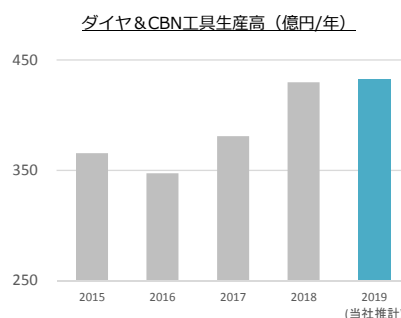
レンズ材料 → 成形 → カメラ等のレンズ

成形用金型

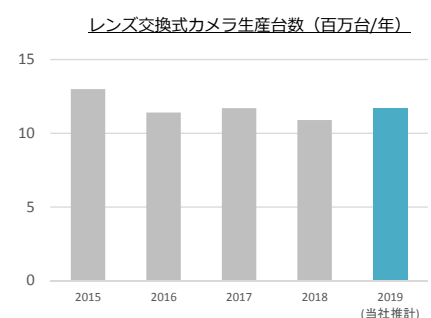
- カメラの生産台数は減少傾向も大径レンズの需要拡大見込み（コア客、五輪等のスポーツイベント開催）
- 金型の大型化で売上金額拡大



※ 出所：(株)S総研データを元に当社加工



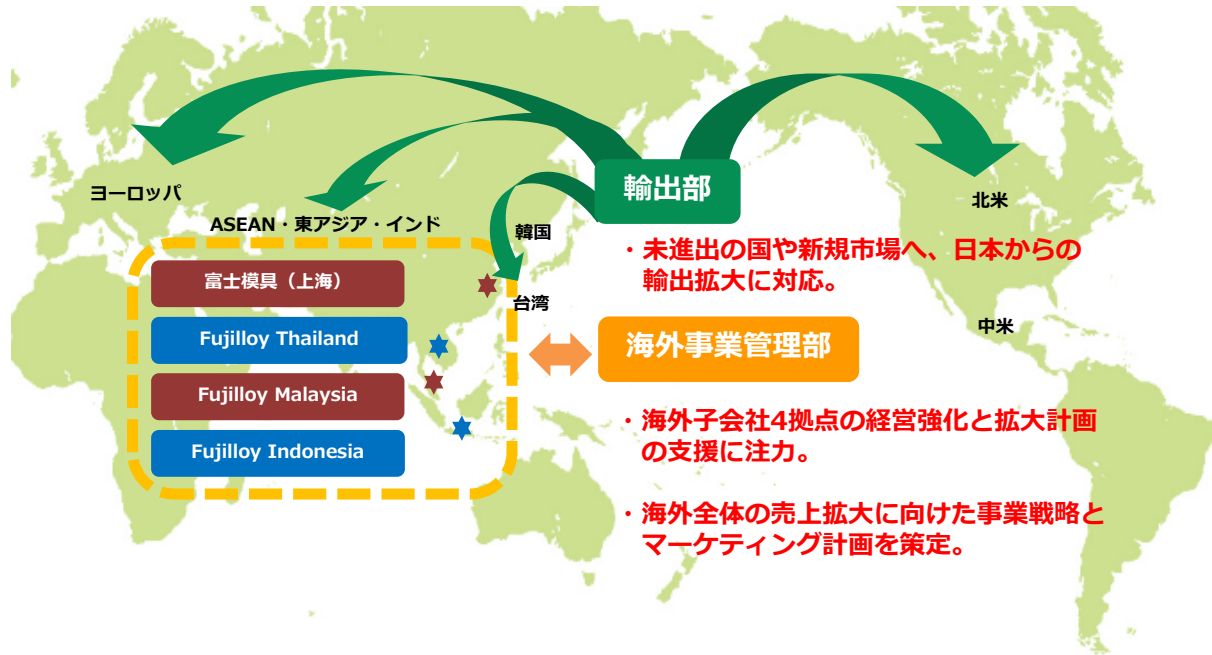
※ 出所：日本機械工具工業会



※ 出所：カメラ映像機器工業会

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

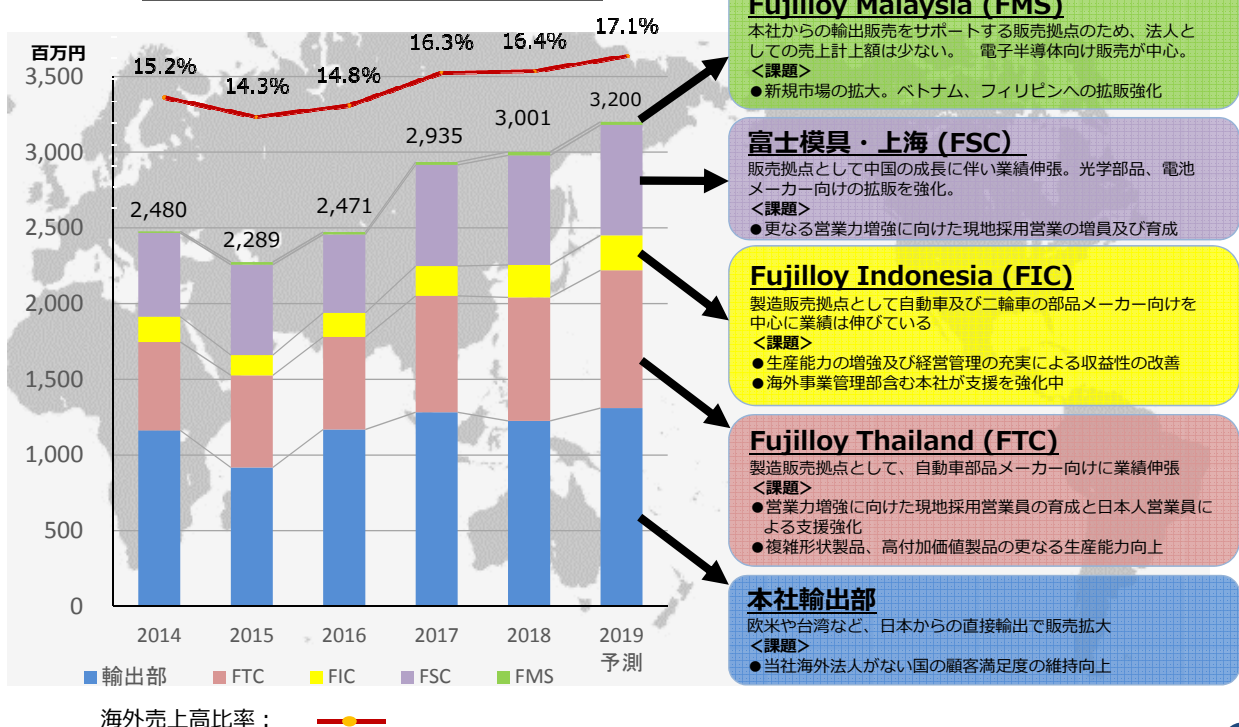
- 2018年10月1日付で海外事業管理部を新設。
海外展開の強化、更なる売上拡大を図る。



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

海外子会社、輸出の両輪での売上拡大を目指す

海外売上高および海外売上高比率の推移



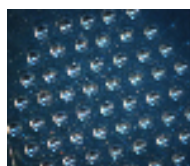
Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

新製品・新技術の開発強化

分野	概要	素材	優位性	進捗状況	販売時期(予定)		
					2018年	2019年	2020年
次世代自動車	①モーター用抜き金型	①超硬合金	①材料技術	①サンプル出荷	→		
	②車載電池用金型	②超硬合金	②加工技術	②販売中	→		
	③過給器用機械部品	③複合材料	③特許出願	③サンプル出荷	→		
	④電池部品用高精度金型	④超硬合金	④加工技術	④技術確立中	→		
航空・宇宙	①航空機エンジンタービン加工向け工具	①セラミックス	①特許取得	①販売中	→		
	②燃料ポンプ用摺動材	②複合材料	②材料技術	②性能評価中	→		
医療・化粧品	①分析マイクロチップ用金型(μ-流路)	①超硬合金	①加工技術	①サンプル出荷	→		
	②ドラッグデリバリーシステム用金型 → 次ページ参照	②複合材料	②加工技術	②性能評価中	→		
環境・エネルギー	①半導体向け高熱伝導用素材	①複合材料	①特許取得	①サンプル出荷	→		
	②高圧合成法を用いた触媒	②新物質	②特許取得	②サンプル準備中	→		
その他	①赤外線レンズ用金型	①複合材料	①特許取得	①性能評価中	→		
	②高圧発生装置用素材	②超硬合金	②特許取得	②販売中	→		

下記製品・技術を顧客企業と協働で開発中

●ドラッグデリバリーシステム (DDS) 用金型の開発



ニードルアレイ金型 (非鉄合金)

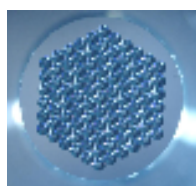
技術・製品の特長

- DDS用金型では薬剤量の制御(放出量、持続時間)が重要
- 経皮吸収を促進させるため、極小針で皮膚に穴をあけるマイクロニードル技術が必要(微細加工、ナノインプリント等の製造技術)
- ニードル間のピッチ精度1μm

期待効果・用途例

- 医療分野
⇒ 皮膚・年末から薬吸収(経皮投与)
- 的確な薬効と投与量の減量が期待できる
- 適用拡大が期待できる(化粧品他)

●マイクロレンズアレイ用金型の開発



レンズアレイ金型

技術・製品の特長

- 微小なレンズエレメントを複数配置
- アレイ間のピッチ精度1μm
- 複数レンズの形状精度1μm

期待効果・用途例

- 光利用の効率向上、集光、光拡散を制御する機能を有する
- 光通信、プロジェクター、レーザー光、照明等の光学系用途に使用される
- 大容量5G通信にも適用可能

	2017年度 (実績)	2018年度		2019年度 (計画)	2020年度 (計画)
		(短信予想)	(実績)		
連結売上高	179億円	183億円	183億円	187億円	190億円
経常利益率 (経常利益)	8.1% (14.7億円)	7.8% (14.3億円)	7.3% (13.4億円)	7.4% (13.9億円)	7.5% (14.3億円)
当期純利益	9.3億円	9.6億円	9.5億円	9.9億円	10.4億円
ROE	5.1%	5.1%	5.1%	5.2%	5.3%

株主還元について

経営成績及び財政状態を勘案した上で、配当性向50%を目処に利益還元を行ってまいります。上記方針に基づき、2019年度は一株あたり25円、2020年度は一株あたり26円の配当を計画しております。

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2018年3月期 業績概要	14
IV : 2019年3月期 業績見通し	22
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	41

企業理念

- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

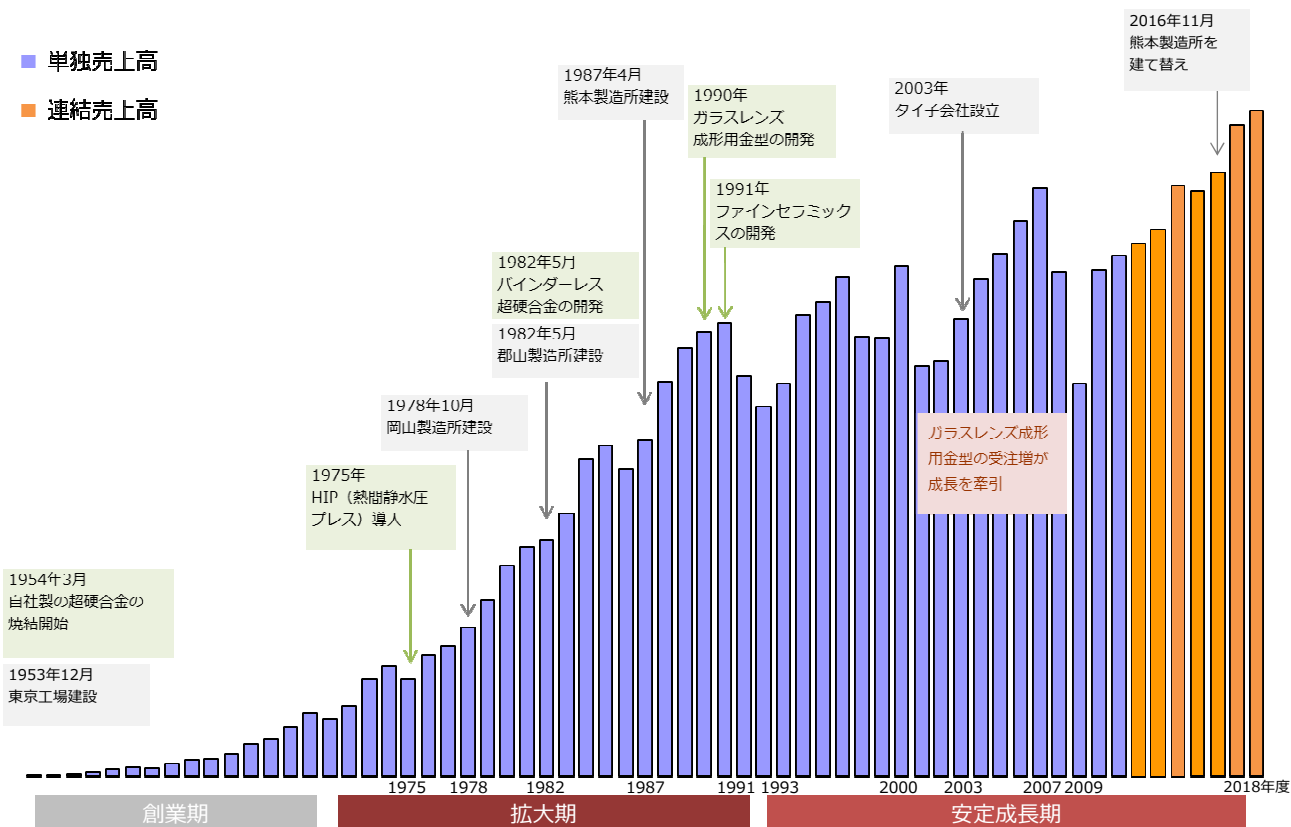
基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

- 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
- 品性ある企業グループ並びに企業人

主な沿革



(注) 2012年度以降は連結

耐摩耗工具とは？（ダイスとプラグ）

- 超高精度の金属加工（塑性加工）を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、生産性に直結する重要な部材
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

代表的な耐摩耗工具 ダイス・プラグ

ダイス
線材、棒、パイプ等の外径を決める工具

プラグ
パイプの内径を決める工具

【ダイス・プラグの使用例】

パイプ
ダイス
引き抜く
プラグ
パイプの内外径を調整している

ダイス・プラグは多くの製品の製造に用いられる

大型
油井管（石油、天然ガス掘削プラント用配管）
産業機械用リニア
半導体製造装置用部品

丸型
異型

注射針
金、白金電気接点（電子部品、点火プラグ）

小型

当社は単純形状から複雑形状、超小型から大型まで対応可能な技術力・設備を有しており国内トップシェアを誇る

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

耐摩耗工具とは？

- 超高精度の金属加工（塑性加工）を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、生産性に直結する重要な部材
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

飲料缶の製造工程（軽量化・薄肉化・小型化に貢献）

自動車部品の製造に多く用いられる

① 板材からせん断
ブランキングダイ

② 側面をしごき加工
パンチスリーブ
ファイニングダイ

③ 底面部分を成形
ドローイングダイ

④ 高さを揃える

⑤ 開口部分を成形
ネックングダイ

表面の凸凹を安定的に表現するには高度な技術が要求される

**エンジン
トランスミッション**

- ・板金用金型
- ・抜き・絞り金型
- ・圧粉成形金型
- ・アルミ casting 金型
- ・冷間鍛造金型

ステアリング

- ・冷間鍛造金型
- ・板金用金型

**シートベルト
保安部品**

- ・冷間鍛造金型
- ・板金用金型
- ・圧粉成形金型

**サスペンション
マフラー**

- ・ダイス、プラグ
- ・スピニング成形工具
- ・曲げ金型

ラジエーター

- ・押出ダイス
- ・転造工具

**クリーンエネルギー
システム**

- ・抜き・絞り金型
- ・圧粉成形用金型
- ・カッター刃

タイヤ・ホイール

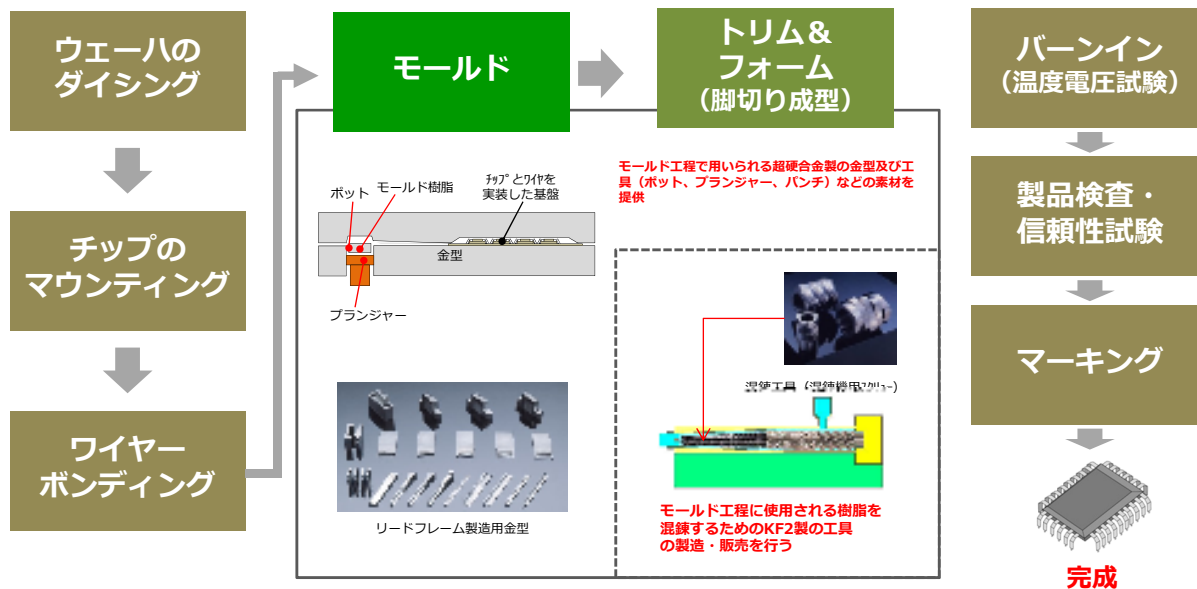
- ・フォーミングロール
- ・パーリングパンチ
- ・引抜ダイス
- ・カッター刃

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

- 超高精度の金属加工（塑性加工）を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、生産性に直結する重要な部材
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

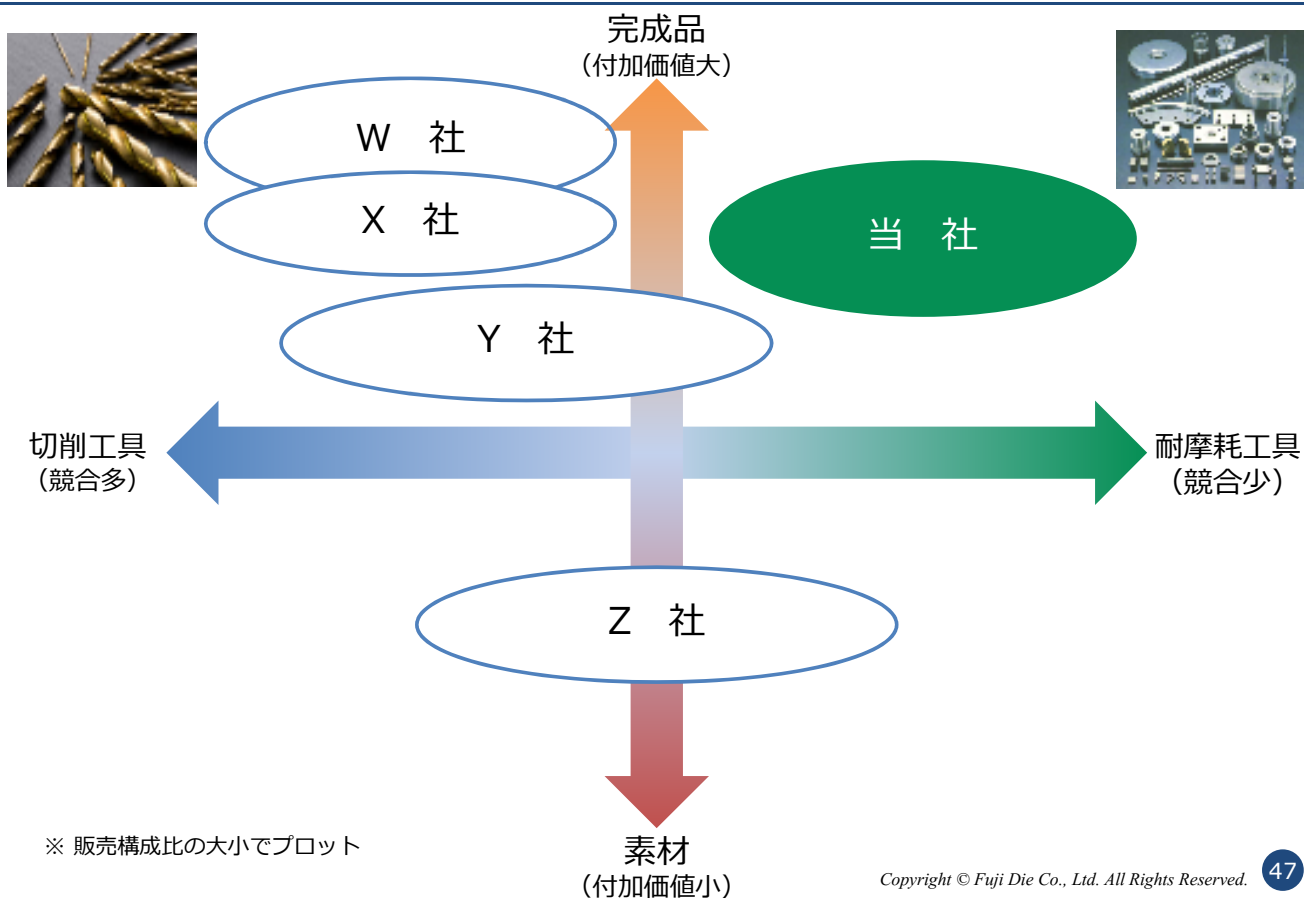
半導体の製造工程にも用いられる

【後工程】



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

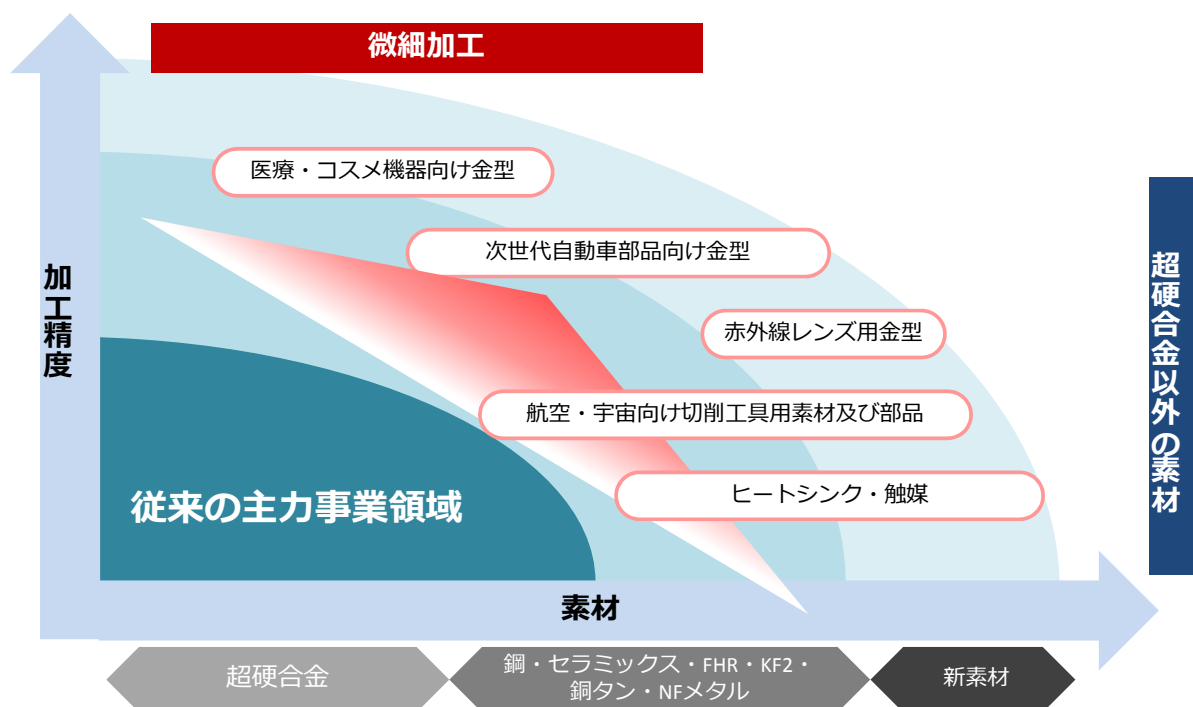
工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



※ 販売構成比の大小でプロット

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

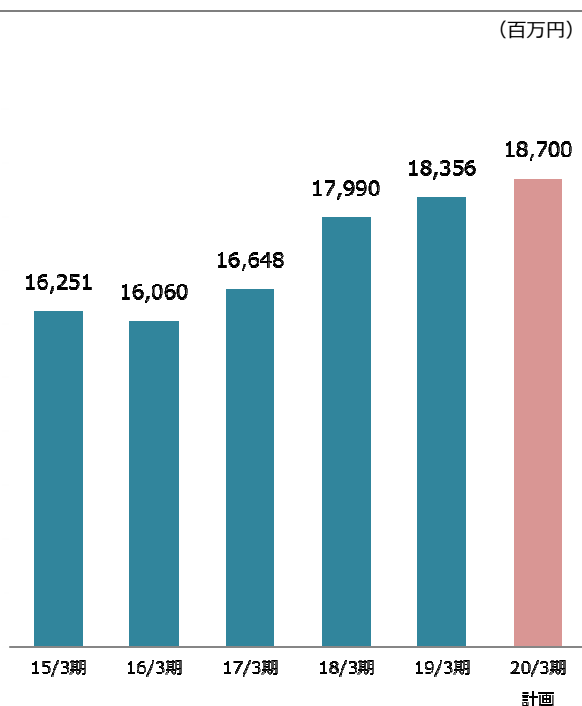
- 粉末冶金技術を駆使した**新材料**の研究開発を強化し、耐摩耗工具**以外**へ進出
- **超精密加工技術**を用いて研究開発を進展させ、**新しい産業分野**を開拓



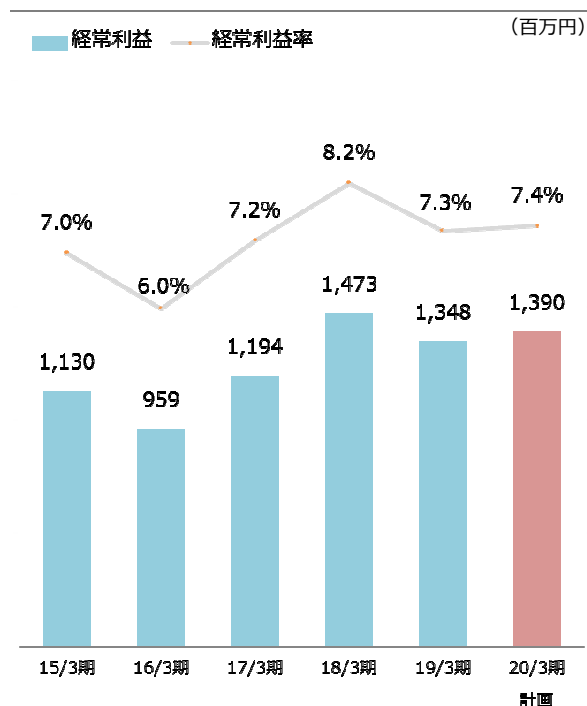
Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

業績の推移 1/3

売上高

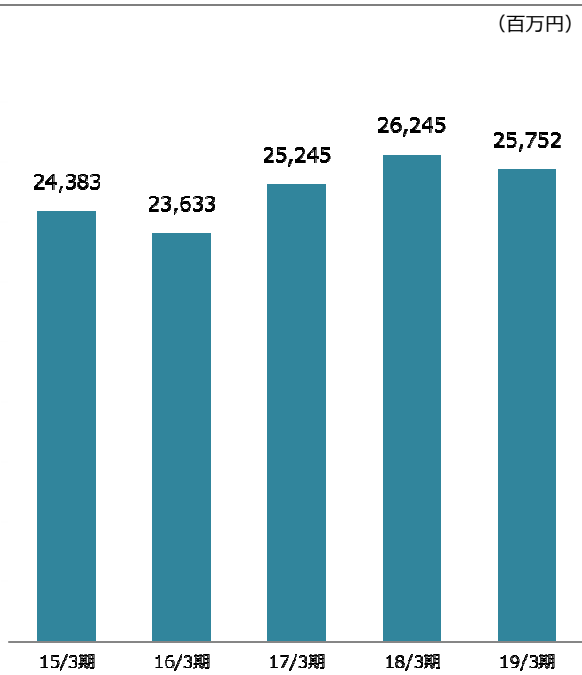


経常利益

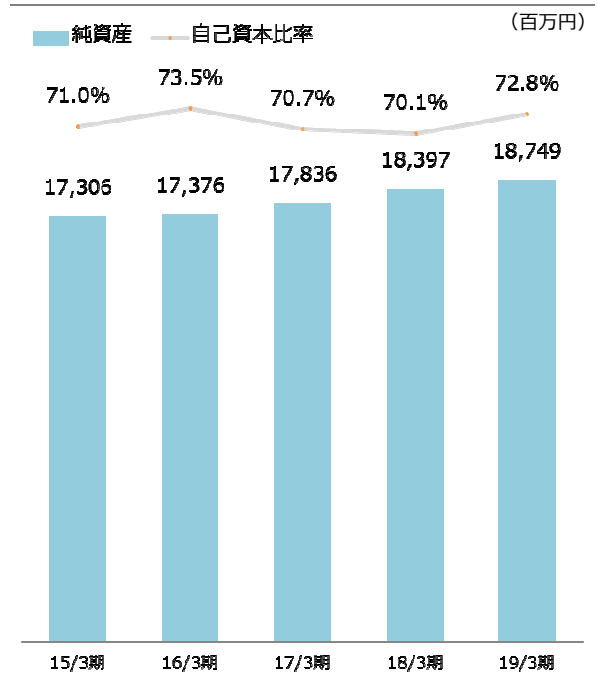


Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

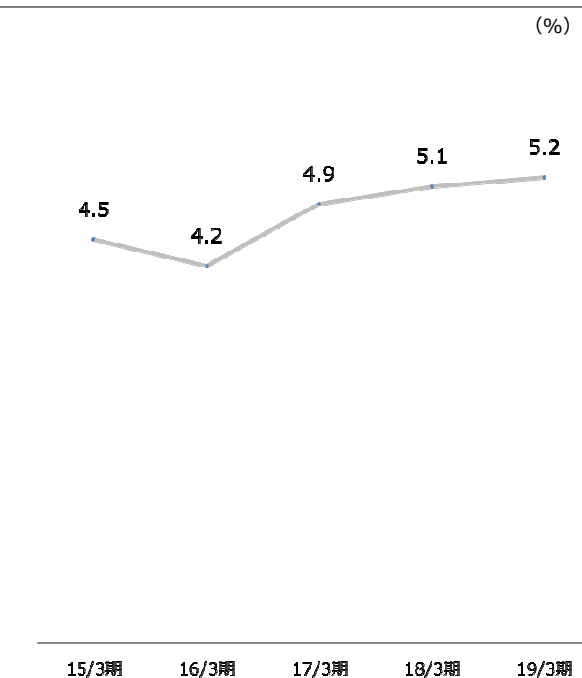
総資産



純資産



ROE



- 富士ダイス単体の主な経営指標は以下のとおりです。

（単位：百万円、下段は構成比）

	2018年3月期		2019年3月期	
	実績		実績	前期比
売上高	15,962 (100.0%)		16,315 (100.0%)	102.2%
経常利益	1,315 (8.2%)		1,456 (8.9%)	110.7%
当期純利益	641 (4.0%)		1,161 (7.1%)	178.8%
純資産額	16,961		17,609	103.8%
総資産額	23,976		23,952	99.9%
自己資本比率	70.7%		73.5%	104.0%

<参考資料> 直近のメディア掲載記事

● 日刊工業新聞
2018年12月6日



● 株主手帳
2019年3月号



● 日刊産業新聞
2019年5月16日



※これらの記事は、当社ホームページ内 ニュース欄からお読みいただけます。

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記載されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性(市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等)が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。